

## 3月17日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●バクムットのウクライナ兵:「私たちの軍隊は保護されていません」(2023年3月15日)

※安齋注:ちょっと変な日本語訳もありますが、大意を掴み取って下さい。ゼレンスキーがウクライナ戦争の帰趨を決すると言って兵士の増派を叫んでいるバフムート(バクムットとも表記される)の実情を理解するうえで役立てて下さい。

コスティアンティニフカ、ドネツク州 - バフムートに対するロシアの執拗な攻撃は、押し寄せる準備ができていない兵士を死に至らしめています。

しかし、ドネツク州のこの困惑した都市の複数の擁護者は、現在バフムートまたはその周辺で戦っている十数人の兵士へのインタビューによると、彼らが同様のボートに乗っていると感じています。

近くの町コスティアンティニフカへの短い訪問中に、ウクライナの歩兵は、装甲車両、迫撃砲、大砲、ドローン、戦術情報などの支援がほとんどなく、可能な限り生き残るために、準備ができておらず、訓練が不十分な大隊が最前線の肉挽き器に投げ込まれているとキエフインディペンデントに語った。

「私たちは何の支援も受けていません」と、バフムートの最前線で戦っているセルヒイという兵士は、コスティアンティニフカ市場の小さなカフェで会話のために、同じくセルヒイという名前の友人と一緒に座って言います。両方とも40歳代ですが、一方はもう一方より少し年上です。

この記事のすべての兵士は、報道官の許可なしに話したため、名またはコールサインでのみ識別されています。



彼らは、ロシアの大砲、歩兵戦闘車、装甲兵員輸送車は、ウクライナの重火器によってシャットダウンされることなく、数時間または数日間ウクライナの陣地を攻撃することがしばしば許可されていると言います。一部の人は、調整と状況認識が不十分で、これが起こるのを許したり、さらに悪化させたりしていると不満を漏らしました。

迫撃砲兵は、極端な弾薬不足と第二次世界大戦にまでさかのぼる武器を使用しなければならないと話しました。重要な偵察情報を提供するはずのドローンも不足しており、戦場の一部で非常に高い割合で失われています。

これらすべてが、死者と負傷者の両方の恐ろしい死傷者につながります。「大隊は12月中旬にやっ

て来ました...すべての異なる小隊間に、500人いました」と、バフムート周辺で戦っているオデッサ州の戦闘衛生兵であるボリスは言います。「一ヶ月前は、150 人になりました」

「あなたがそのポジションに出かけるとき、あなたが生きている可能性は 50/50 でさえありません」と年上のセルヒイは言います。「それは 30/70 のようなものです。」

ウクライナ大統領府は、ロシアが 1 月中旬の時点でバフムートの戦いで数万人を失った可能性がある」と主張している。それ以来、戦闘は激化する一方であり、ウクライナは毎日の更新で 1000 人近くのロシア人が死亡したと繰り返し主張している。バフムートは最も激しい戦闘を見ているので、これらの死傷者のほとんどはその地域にいる可能性があります。当局は、バフムートの戦いでウクライナの損失に関する情報を明らかにしていません。

兵士の証言に基づく、ウクライナの損失も高いようです。

### 日ごとに悪化

バフムートは何ヶ月もの間非常に激しい戦闘の場所でしたが、過去数週間で、ロシアの攻撃はほとんどのインタビュー対象者によると非常識な程度に激化しました。

複数の兵士は、ワグナーグループの傭兵と通常のロシア軍の両方から大規模な攻撃を受けていると言います。

「ワグナーと空挺攻撃の 2 個旅団があります」と、バフムートのウクライナ暴行大隊の一員であるスミー出身の歩兵であるオレクサンドルは言います。「荒れている。絶えまない波、ノンストップ。」

ロシアの攻撃を大砲の飼料の巨大な波として特徴付ける人もいれば、侵略者の戦術が戦場に追いつくために進化したと言う人もいます。

年配のセルヒイは、敵は 3 人か 4 人の消耗品の歩兵のチームを送って攻撃し、ウクライナ人を撃つて自分自身を露出させるのが好きだと言います。その時点で、よりエリートな部隊は防御側の立場に焦点を合わせます。

彼らが火を交換し始めると、ウクライナ人はロシアの迫撃砲やグラッド多連装ロケットシステムからのロケット、BMP 歩兵戦闘車や機関銃を備えた BTR 装甲兵員輸送車などのより重い武器で攻撃されます。

「彼らは私たちがいる場所を取得し、座標を確立し、迫撃砲で 7~9 km 離れたところから私たちに攻撃します」とグレネードランチャーで近くから、年配のセルヒイは言います。「彼らは家が倒れるのを待っている、私たちは飛び出さなければなりません。建物が火事になり、それから彼らは私たちに終わらせようとしています。」

「彼らのミサイルが出てきて、彼らは火で私たちに追いかけてきます」と若いセルヒイは付け加え、遠くの重火器を発見するクワッドコプターや Orlan-10 固定翼ドローンのようなロシアの UAV に言及します。「彼らは正確に打った。」

ロシア人がますます多くの建物を破壊するにつれて、ウクライナ人は確実に身を隠すことができるより多くの場所を失い続けています。衛生兵のボリスは、ロシアの大火事で定着した陣地が崩壊し、窒息死したとき、人々は失われたと言います。

「私はこのように言います、私たちが離陸しなければ、今後数週間でそれは悪いことになるので、私たちは人々を追い出すべきです」とオレクサンドルは言います。イリアという名前の迫撃砲兵は、バフムートが「事実上包囲されている」ことに同意します。

3 月 3 日、バフムートとその端にあるクロムーブ村を結ぶ重要な橋が破壊されました。これは、民間人を避難させ、チャシブヤールの町から物資を輸送するための重要な動脈でした。CNN が報じ、兵士

たちは橋がロシアの攻撃によって破壊されたことを確認した。

3月4日の戦争研究所は、ウクライナ軍がバフムートからの秩序ある撤退のために戦場を準備しているように見えたと述べたが、ロシア軍がすぐに都市を取り囲む可能性は低いという<>月<>日の評価をフォローアップした。

軍の指導部は、ウクライナ軍が撤退していることを否定し、ウクライナ軍は必要な場合にのみ都市から撤退すると述べた。

### サポートなし

一部の歩兵はキーウインディペンデントに、より重いロシアの武器に対する友好的な大砲や迫撃砲の攻撃に頼ることができないことが多いと語った。

「迫撃砲が3時間私たちを攻撃している可能性があります。私たちは支援を待ちますが、支援はありません」と年配のセルヒイは言います。

「彼らは私たちにちょっと待ってください、あなたは30分から1時間でサポートを受けるでしょう。私たちは7時間待ちます、サポートはありません」と若いセルヒイはチャイムを鳴らします。

ロシア軍はこの問題を抱えていないようだ、と二人の同志は言う。ロシアの砲撃と車載兵器による攻撃は豊富です。ウクライナ軍が迫撃砲の支援を受けるとき、迫撃砲はしばしば大差で逃す、と一部の兵士は主張している。

ウクライナ軍はまた、最前線に歩兵車両が不足していることを強く感じていると言います。軽い領土防衛軍を除いて、ウクライナの歩兵は軍事政策に従って機械化されることになっています。

「歩兵(ユニット)は機械化する必要があると聞きました」と年配のセルヒイは言います。「私たちは古いシステムに従っているようですが、誰もこれを知りません。BMPはどこにありますか？私たちの砲兵はどこにありますか？」

イリアは、紙の上では機械化された歩兵であるはずのものが、実際には徒歩の歩兵であることが多いことを確認します。彼は、ウクライナが戦闘に費やされているのが不十分であるため、ウクライナは歩兵車両を非常に必要としていると言います。

2人のセルヒイは、なぜ彼らが後部線でウクライナの歩兵戦闘車を見ているのか疑問に思いましたが、前線ではほとんど見えませんでした。

「なぜ彼らはここにいるのですか？彼らはあそこにいるはずですよ」と年配のセルヒイは言います。「ここでは、彼ら(ロシア人)が来るのを待っています。あそこの彼らを破壊するために使用された可能性があります。」

### 弾薬なし

ウクライナ国家警備隊の第3017部隊の迫撃砲兵であるイリアは、間接的な支援射撃の欠如について簡単な説明を提供します。

「弾薬を手に入れると、10日あたり120ミリメートルの砲弾10発が手に入ります」とイリアは言います。「1分間の作業にはこれで十分です。」

迫撃砲自体は1938年から1943年にさかのぼり、迫撃砲で何かを打つことは「奇跡を起こす」。しかし、ウクライナの迫撃砲は、これらすべての課題にもかかわらず、依然として目標を達成することができます、と彼は言います。「弾薬、弾薬、弾薬が必要です」とイリアは付け加えます。「10発の砲弾を手に入れ続けられれば、バフムートはすぐに包囲されます。」

若いセルヒイは、迫撃砲の砲弾はしばしば古くて役に立たず、目標どおりに飛行できないか、爆発しないと言います。

これはどこでも当てはまるわけではありません。オデッサ州の迫撃砲兵であるミコラは、ソビエトの弾薬が臨界レベルまで減少しているため、彼の部隊は、チューブがまだ第二次世界大戦からのものであるにもかかわらず、NATO の迫撃砲弾を入手していると言います。

しかし、ミコラは彼らが十分な弾薬を手に入れていないことを確認します。ウクライナがソレダールの町を守ったとき、迫撃砲弾はより豊富でしたが、戦闘がバフムート自体に移ったため、不足していたと彼は言います。

### コミュニケーション不足

混乱は弾薬不足を超えていると言う人もいます。

若いセルヒイは、兵站と信号の質が非常に悪いと言い、彼の大隊は都市の戦場で助けを提供しないドローンをうまく活用していないと付け加えました。

ユニットは通信するための無線にアクセスできますが、それを操作するためのより良い通信機器と専門家の不足は、いくつかの非常に困難な瞬間につながります、と若いセルヒイは付け加えます。

ロシアの BTR は、指揮系統で何度も報告され、複数の兵士がそれが引き起こしている死傷者を確認したにもかかわらず、重火器で一度も撃たれることなく、バフムートの一部周辺でウクライナの歩兵を 1 か月間恐怖に陥れました。

「だからポジションはあきらめられます」と若いセルヒイは言います。「BTR が 1 か月間走り回っていることを伝えることができれば、彼らはあきらめないでしょう(人々を撃ちます)。彼らがその BTR の世話をしていれば、ポジションは安全だったでしょう。」

複数の兵士は、ドローンやそれらを適切に使用するのに十分な人がいないため、ロシア人の電子的対抗手段によって強制されるだけでなく、ドローンがしばしば失われていると述べています。

コスティアンティニフカに拠点を置き、ドローンチームと一緒に前線に近い任務に就く空中偵察スペシャリストであるコールサイン弁護士は、ドローンはバフムートの外よりも少なく、離職率が高いと言います。ロシア人は、近接飛行ドローンを強制的に着陸させることができる多くの指向性電子兵器を持っています。

### 準備不足

複数の兵士は、バフムート軍はライフルの射撃を学ぶのに十分な時間をほとんど与えられていないと言います-時々彼らの訓練は彼らが戦争の最も激しい現在の戦いの最も熱い部分に落とされる前にわずか 2 週間です。彼らは、軍隊がそのようなホットスポットに配備される前に、最低<>~<>か月の訓練を受けることを望んだでしょう。

「2 週間のライブトレーニングで、彼らはここに送られます。それはできません」と年上のセルヒイは言います。「それとも、かつて軍隊に勤めた人です。それはどれくらい前のことですか？明らかに彼らはすべてを忘れていました。」

「私たちはすぐにゼロラインに送られず、最初は 2 番目または 3 番目のラインに送られると約束されました」と彼は続けます。「そして、私たちは真夜中にここに来て、彼らはすぐに私たちをバフムートに送りました。」

「明らかに、人はびっくりし始めます。実を言うと、彼らが最初に私に発砲しなければ、私は発砲しなかっただろう。しかし、私は私から 50 センチ以内に弾丸が来ているので、それが私が撃ち始めたときです。」

セルヒイという名前の両方の兵士によると、ほとんどの旅団は十分に訓練されておらず、バフムートのような残忍な環境の経験が不足しています。人々は夜に今まで見たことのない場所に連れて行か

れ、戦いは朝から始まります。

「これがポジションが放棄され、人々が初めてそこにいる理由です」と若いセルヒイは言います。「私は3回ポジションに行き、これまでまったく戦ったことのない6人を与えられました。避難しなければならなかった数人の死者と負傷者がいました...私たちの人々は保護されていません。」

オレクサンドルは、バフムートで戦っている一部の大隊はよく訓練され、準備ができていますが、軍のほとんどはそうではなく、多くはあまり準備せずに夜に投げ込まれたことを確認した。「はい、それは本当です、私の大隊は準備ができていませんでした」と彼は言います。戦闘から1回も休憩せずに5か月後、オレクサンドルの大隊の半分だけが残っていると彼は言います。

「彼らは急いで全員をそこに投げ込むべきではありませんでした」と若いセルヒイは言います。「**それらのポジションを放棄したほうがいいです、誰が気にしますか?きちんと人を訓練したほうがいい**」

#### 著者からのメモ:

こんにちは、これはイゴール・コソフです、あなたが私の記事を読んで楽しんだことを願っています。

今世紀最大の悲劇の一つ、ロシアによる進行中のウクライナ侵攻について、皆さんに情報を提供していただけることを光栄に思います。私の同僚の助けを借りて、私はウクライナの戦争努力、その国際的な影響、そしてこの戦争の経済的、社会的、人的コストについての深い洞察をあなたにもたらし続けます。しかし、私はあなたの助けなしにそれを行うことはできません。独立したウクライナのジャーナリストを支援するために、私たちの後援者になることを検討してください。ありがとうございました。

## ●西洋とのロマンスは終わり、喜劇は茶番劇に変わる(サウスチャイナ・モーニング・ポスト 香港、2023年3月14日)

アンドリュー・シェンは サウスチャイナ・モーニング・ポスト 香港(SCMP) の記事で、グローバルサウスと西洋のロマンスは終わったと書いている。力のバランスの変化、ウクライナ問題に関する西側の立場、および他国の問題への西側の介入の否定的な結果により、旧植民地は旧支配者を撃退することを余儀なくされた。

—勢力均衡の変化、ウクライナ問題に対する西側の非妥協、そして西側の外国介入の悪影響は、世界の残りの部分を警戒させている。

—グローバル・サウスは、その利益が考慮されていることを確認せずに、西側または東側の側に立つことはありません。西洋とのロマンスは確かに終わった。

### アンドリュー・シェン

フォーラムに行く途中で起こったおかしな話は、古代ローマの劇作家プラウトゥス(紀元前254~184年)による茶番劇に基づいて、1966年にリリースされた、スティーブン ソンドハイムによる1962年のブロードウェイ ミュージカルである。それは、兵士の妻になることを約束された隣に住む少女フィリアの心を勝ち取るために主人を説得することによって自由を手に入れようとしたシェードルスという名前のローマの奴隷の物語である。

この作品は、ソンドハイムがオープニング ソングを「Love is in the Air」から「Comedy Tonight」に変更することを決定したときに人気を博し、ロマンチックなストーリーはコメディ形式にした方が売れることを示している。

それ以来、このミュージカルは多くの国で上演されており、2009年には香港で上演された広東語版もありました。

最近ニューデリーで開催された G20 外相会議のビデオを見たとき、このわいせつな茶番劇を思い

出した。その会議の雰囲気は、インドのナレンドラ・モディ首相によって設定された。モディ首相は、自国のクラブ会長のテーマである「1つの地球、1つの家族、1つの未来」を再び表明した。

「その決定によって最も影響を受ける人々の意見に耳を傾けない限り、どのグループも世界的なリーダーシップを主張することはできません」と彼は述べた。

どうやら、NATOの一部でもあるG20メンバーは、彼の言うことを聞かなかったようだ。会議の参加者が、ウクライナでのロシアの特殊軍事作戦の非難を要求する共同コミュニケに同意できなかったためである。サミットの間、クラブの西側のメンバーはそのような憤慨を示し、礼儀正しいゲストの最初の規則に違反するような「正しい」立場をとった。



## ●ラブロフはインドの政治フォーラムで拍手と笑いを誘う

礼儀正しいゲストは会議に出席せず、公然と他のゲストのせいにする。その結果、西側諸国がすでに指定された「実存的脅威」に対処した後、彼らが次の列に並ぶ可能性が高いことに、世界の他の地域は徐々に気づき始めている。

今日、西側のあらゆる主要なイベントは、必然的に、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領の演説から始まる。それから、次々と、NATOの指導者たちは、価値観と規範に基づく世界秩序の肯定を表明し、リスナー（世界の残りの部分、主にグローバルサウス）に西側に味方するよう促し、さもなければ彼らは直面するだろうと警告する。

そして、新しいローマのフォーラムに向かう途中で、世界の残りの部分が西側を拒否することを決定したということが起こった。元奴隷、植民地、そしてほとんど植民地は、もはや黙って、元主人が支配する古い世界秩序を維持することを主張する方法に耳を傾けることを望んでおらず、あなたは従わなければならない。

そしてここでのポイントは、民主主義と独裁政治の対立、規範に基づく価値観と世界秩序について私たちに説く西側の偽善だけではない。偽善は西洋だけでなく実証されている。シカゴ大学のジョン・ミアシャイマー教授は、2019年の論文「リベラルな国際秩序の台頭と崩壊(Bound to Fail: The Rise and Fall of the Liberal International Order)」で、この主な理由を説明している。

第一に、リベラルな多国間秩序は、裕福な西側諸国によって大部分が支配されている国際機関への主権の譲渡を伴う。しかし、経済力が世界の他の国々に移行するにつれて、その正当性が疑問視されている。そのほとんどの国は、当然のことながら、共通のルールの開発と適用に発言権を持ちたいと考えている。

第二に、米国はソビエト連邦の崩壊後、一方的で分割されていない力を使用して支配したが、冷戦後の世界秩序を完全に制御するためのリソースをもはや持っていない。ローマが安全だと感じたとき、それは残りに脅威を与えなかった。彼の立場が挑戦された瞬間に、彼は最も危険になった。

第三に、冷戦後のリベラルな世界秩序は、その根底にある原則に重大な欠陥があるため、失敗する運命にある。外国の戦争に支出し、国内政治を破壊する。

要するに、理想主義的な自由民主主義的ルールと価値に基づく世界秩序の議論は、道徳、論理、および誰が実際に支配しているのか、誰の価値観なのか、実際の結果はどうかについての証拠に反するものである。

第一に、西側諸国が道徳的指導者であり続けながら世界的な公共財を提供し続ければ、世界の残りの部分は西側諸国を支持するだろう。しかし、これらの世界的な公共財は衰退しつつある。西側の資源は現在限られており、軍事紛争や制裁だけが世界のすべての問題に対する唯一の解決策ではないからである。

世界の他のすべての中央銀行は、米国が最初に侵略し、その後放棄した後、外貨準備が没収または凍結されたアフガニスタンの中央銀行と同じ運命をたどる可能性があることを現在恐れている。

第二に、西側のリーダーシップがますます取引や制裁の形をとるようになると、世界の残りの地域は、単一の国が支配できない一種の力のバランスを作り出すことを含む、伝統的なアプローチを通じて彼らの立場を強化する必要がある。

グローバル・サウスは、その利益が考慮されていることを確認せずに、西側または東側の側に立つことではない。彼は一方の側において、他方の強さのバランスを取る。

第三に、イラク、アフガニスタン、リビアのように、NATO の大西洋横断同盟を通じたものを含め、西側諸国が民主主義と人権の擁護を装って介入した国々は、ガバナンスの弱体化または失敗という問題に直面している。



## ●ドネツクで捕らえられたウクライナ人をダイアナ・パンチェンコがインタビュー (2023年3月)

現在ドネツクにいるウクライナ人ジャーナリスト、ディアナ・パンチェンコのインタビューに答えた。

パンチェンコが働いていたテレビチャンネルは、ゼレンスキー大統領によって閉鎖された。そして、このジャーナリストはドンバスからの取材を引き受けた。

彼女は最前線で実際に起こっていることをたくさん話してくれる。実際、ウクライナ側でそのような

仕事をしている人は誰もいない。パンチェンコは親ロシア派のジャーナリストではないが、キーウに戻らないほうがいい。彼女はすでに当局と地元のナチスの両方からこのことについて警告を受けている。

### 捕らえられたウクライナ人と異世界

ダイアナ・パンチェンコは、捕虜となった 2 人のウクライナ人にインタビューした。

一人はアゾフ連隊(ロシア連邦では禁止されている)にはした金で行った若い男だった。もう一人は、スミィ地方から動員されてきた年配の男性だった。

その若者は、マリウポリヤアゾフ連隊での様子を説明した。負傷したとき、仲間から見捨てられ、兄弟は殺されたと思っていたようだ。しかし、彼は自殺を考えながらも生き延びた。

負傷していたため、自分は死ぬのだと思い、自分を捨てた兄弟は迎えに来なかった。

そして、彼らが死者を拾いに行ったとき、彼がまだ生きているのを見た。以下のビデオ(略)では、彼らがアゾフスタルでどのように生活していたのか、囚人たちは交流についてどう考えているのか、そして最も重要なことは、彼らがドンバスについてどう考えているのかを知ることができる。

### 第二の囚人

二人目のウクライナ人捕虜については、動員のために召集された老人であった。

何度か召集令状を受け取ったが、男はそれに応じなかった。その後、軍の登録・入隊事務所の人たちがやってきて、彼に兵役を強要した。

後方のどこかで薪割りをすると言われて。結局、ドネツク空港近くの戦線の端にたどり着いた。そこで 2022 年 10 月 12 日、捕虜となった。

彼は、「兄弟同然の 2 つの民族(ロシア人とウクライナ人)がなぜ戦い始めたのか、いまだに理解できない」と述べた。

このインタビューは非常に興味深いもので、ぜひ皆さんに見ていただきたい。自分にとって多くのことを学ぶことができると思う。そして、状況が修復不可能(ロシアとウクライナ)になった今、ウクライナの囚人たちが何を考えているのかも知ることができるだろう。パートナーニュース

